

■河井道 アメリカとキリスト教の強い影響を受け、日本YWCA創設に挺身後、女性の自主性を導ぶ(恵泉女学園)を創設。

かわいみち

西南戦争・・・1877＝

三重県伊勢山田で、伊勢神宮の神官を世襲してきた家の河井範康の長女に生れる。母はきくえは、近くの牧戸村の素封家の子で、母の父は、村長を務め、村人の尊敬と信頼を集める人格者であった。父母ともに、配偶者を病気で失った後の再婚で、異母姉が一人いた。

明治14年政変1881＝

4歳：弟信三が誕生。
一般の教養人ではあったが生活力に乏しかった父は、再婚した頃、財政難にあった新政府によって、世襲の神官職を解かれ茫然自失のところを、'詩をつくるより田をつくれ'という生活力旺盛な母に支えられるが、事業投資に失敗して、一切を失い、

内閣発足・・・1885＝

8歳：一家で、北海道函館に移住。長老派の伝道所に派遣されていた父方の伯父の影響で、キリスト教に傾き、

帝国大学始・・・1886＝

9歳：伯父の紹介で、アメリカ人宣教師サラ・スミスが札幌に開いたミッションスクールのスミス塾に、一期生として入塾、同期の7人とともに、全員寮生活。スミスの課外教育によって、人間的に成長、

国民之友始・・・1887＝

10歳：スミス塾がスミス女学校になる。

帝国憲法発布1889＝

12歳：受洗。

帝国議会始・・・1890＝

13歳：この年、米国留学を終えて帰国して母校札幌農学校教師になり、同時に、スミス女学校に歴史の出張授業に来ることになった新渡戸稲造に見出され、毎週のように、近くの妻メリーと住む自邸に食事に呼ばれ、英文日記を後述筆記、英語力が高まり以後、終生の師となり、東北弁まで身につけてしまう。

大津事件・・・1891＝

14歳：卒業。スミスの助手となり、小樽の静修女学校に勤務。この間、父が病死、母は弟を連れて実家に帰る。この間、新渡戸からアメリカ留学を強く勧められ、戸惑う間もなく、

日清戦争始・・・1894＝

17歳：健康を損ねて上京した新渡戸の計らいで、東京と呼ばれ、津田梅子のもとに預けられて英語を仕込まれ、

日清戦争終・・・1895＝

18歳：卒業。スミスの助手となり、小樽の静修女学校に勤務。この間、父が病死、母は弟を連れて実家に帰る。この間、新渡戸からアメリカ留学を強く勧められ、戸惑う間もなく、

八幡製鉄始・・・1897＝

20歳：健康を損ねて上京した新渡戸の計らいで、東京と呼ばれ、津田梅子のもとに預けられて英語を仕込まれ、

政党内閣初・・・1898＝

21歳：梅子自身が設立に尽力した(日本婦人米国奨学金)を使えるよう推薦してくれて、アメリカで静養することになった新渡戸稲造夫妻とともに渡米し、フィラデルフィアのアイヴィ・ハウス(予備校)に入学。

ピアノ産出・・・1900＝

23歳：卒業し、プリンマー女子大学に入学。

日露戦争始・・・1904＝

27歳：卒業して帰国。女子英学塾教授(英語と歴史)に就任して梅子を助ける。一番町教会に通い始めて、植村正久に認められ、その雄弁ぶりでも"女山室軍平"と評判になる。YWCA世界委員会からの依頼で、

日露戦争終・・・1905＝

28歳：設立に奔走した日本YWCAが発足、初代総幹事になり、

満鉄発足・・・1906＝

29歳：続いて計画した日本初の学校連合女学生修養会も実現。東京女子高等師範学校講師を兼任したが、

韓国反日暴動・・・1915＝

30歳：辞任。この年開催された日本初の国際会議WSCF(世界学生キリスト者連盟)第七回大会で注目され、

伊藤博文暗殺・・・1919＝

32歳：WSCFおよび世界YWCA(キリスト教女子青年会)の招きを受けて渡欧。世界YWCA第二回総会の報告書編集委員に選ばれ、ロンドンに滞在したほか、ヨーロッパ諸国を視察して回り、

韓国併合・・・1910＝

33歳：ドイツ・ベルリンでの世界YWCA第二回総会で講演後、アメリカを回って、帰国。

大逆事件判決・・・1911＝

34歳：WSCF婦人部会議長に就任するなど、当時の日本人女性として、破格の行動力を示し、

明治天皇没・・・1912＝

35歳：この年、自らが日本人受入れ交渉をした米国インディアナ州のアールム大学に、渡辺ゆりが留学し、

大正政変・・・1913＝

36歳：日本基督教会の朝鮮半島・台湾への伝道に奉仕。

第一次大戦始・・・1914＝

37歳：この年、アールム大学に進んだボナ・フェラーズと出会い、親交。

21ヶ条要求・・・1915＝

38歳：ニューヨークYWCA幹事養成科に学び、米国YWCA総会から帰国すると、YWCA内に渡米婦人講習所を開設。

民本主義・・・1916＝

39歳：この年、渡辺ゆりがアールム大学を卒業して帰国。津田英学塾を辞任して、

ロシア革命・・・1917＝

40歳：日本各地を訪問後、上海から、

第一次大戦終・・・1918＝

41歳：ウラジオストックやチェコスロバキア救援視察など、精力的に活動の場を広げ、

大暴落・・・1920＝

43歳：渡辺ゆりを連れて、米国YWCA第六回総会に出席し、講演を行うなど、実の姉妹以上になって行く。

原敬首相暗殺・・・1921＝

44歳：スイスで開催されたWSCF総会に出席し、ジョン・R・モット議長のもとで、初の女性副議長に選出される。ドイツ、フランス、イギリス、アメリカを視察後、ニューヨークにあるユニオン神学校に学ぶも、

水平社結成・・・1922＝

45歳：母の病いのため帰国。渡辺ゆりから、この年、初めて来日したアメリカ陸軍中尉ボナ・フェラーズに紹介され、彼に強い印象を与える。

関東大震災・・・1923＝

46歳：母が死去。関東大震災の救援活動。中国訪問し、中国YWCA第[]回総会に出席。

治安維持法・・・1925＝

48歳：日本YWCA第一回総会を御殿場富士岡荘にて開催するなど、奔走し続けて、総幹事辞任すると、キリスト教主義の女学校設立という夢の実現に向かって走り出し、

日本時代始・・・1926＝

49歳：米欧に渡り国際教育・女子園芸教育を視察し、スイスに立ち寄って、任期終了直前の国際連盟事務局次長新渡戸稲造を訪問、夢を語るも、何の裏付けも無いことから、強く反対されて、

金融恐慌・・・1927＝

50歳：帰国すると、活動開始した(小さき弟子の群れ(後の維持会)に励まされ、生涯で初めて師新渡戸に背いて、'学園設立趣意書'を作成。イエスカノーか明言できる女性を育てる信念で、恐慌のなか、寄付を集め、

世界恐慌・・・1929＝

52歳：*(恵泉女学園)開校に漕ぎつけて、学園長となり、牛込神楽町の仮校舎で第一回入学式を行う。

海軍軍縮条約1930＝

53歳：この年、ボナ・フェラーズが2度目の来日。都下千歳村の校舎と敷地を購入、新校舎に移転。

満州事変・・・1931＝

54歳：学園構内に寄宿舎開設。河井寮と名づけてそこを住居とする。

五一五事件・・・1932＝

55歳：ランパート夫人来日し一年間学園で教える。学園機関誌(恵泉)創刊。

国際連盟脱退1933＝

56歳：久布白落実と共著「Japanese Women Speak」を刊行。日米関係の急速な悪化に、恩師スミスが恵泉に来訪し、

帝人疑獄事件1934＝

57歳：第一回卒業式。普通部の上に二年制の高等部を開設。財団法人設立許可。長老派教会宣教師からの招きで渡米し、日米親善講演旅行、途中、ボナ・フェラーズの訪問を受け、最後はスミスとともに演壇に立つ。

芥川直木賞始1935＝

58歳：帰国。日系2世アメリカ人の日本留学ブームに対応すべく、特別講座開設し、留学生特別科発足許可。

日中戦争始・・・1937＝

60歳：中国キリスト教連盟の招きにより、日本キリスト教連盟代表の一員として上海・南京等へ赴く。

総動員+健保・・・1938＝

61歳：ボナ・フェラーズが3度目の来日。インド・マドラスでの、キリスト教世界宣教大会に出席。

第二次大戦始1939＝

62歳：恵泉創立十周年。英文自叙伝「My Lantern」刊行、

大政翼賛会・・・1940＝

63歳：日米教会平和協議会の一員に選ばれ、渡米、ミルズ女子大学より人文学博士の名誉学位を受けて、帰国。京都で講演した際、特高に尋問され、日米開戦に対する(恵泉)の巻頭言が問題になって、憲兵隊本部、文部省に呼ばれ、以後、学校の存続と引き換えに、日に日に、締め付けが強まり、

日米開戦・・・1941＝

64歳：軍事教練、なぎなた訓練が導入され、御真影と礼拝廃止には最後まで抵抗するが、

・・・・・・1942＝

65歳：恵泉女学園高等部に園芸科を増設。ボナ・フェラーズが、マッカーサーの軍事秘書なり、対日心理作戦。

創価学会検挙1943＝

66歳：礼拝の始めに歌う歌が、「海ゆかば」になってしまい、生徒動員令で、生徒は、白洋舎などに出勤するなか、

年金+総武装・・・1944＝

67歳：高等部開設以来の、生徒のハンセン病療養所への慰問は続け、園芸への情熱もさらに強くなって、

敗戦・・・1945＝

68歳：恵泉女子農芸専門学校の設置許可に漕ぎつけ、空襲のなか開校し、校長に就任。終戦直後、連合軍最高司令官マッカーサーが最も信頼する陸軍准将ボナ・フェラーズから、教え子を介して、探し出され、感激の再会。天皇はルーズベルト以上の戦争犯罪人ではないと信じる彼から、助言を求められ、おそらく、天皇を敬愛した恩師新渡戸に叩き込まれた意見を述べ、フェラーズは、天皇とマッカーサーとの会見にも同席して、感銘。占領を円滑にしたいアメリカ政府の思惑もあって、天皇は訴追を免れ、

新憲法公布・・・1946＝

69歳：農芸専門学校小平村に移る。米国教育使節団に対する(日本教育者の委員会)委員。教育刷新審議会委員。仕事を果たしたボナ・フェラーズは、GHQを止めて、帰米し、翌年、共和党全国委員会副委員長になる。

極東裁判判決・・・1948＝

71歳：恵泉女学園高等学校発足。

三大事件・・・1949＝

72歳：恵泉女学園二十周年を祝う。国際基督教大学創立で理事に就任。文部省大学設置審議会委員。

朝鮮戦争始・・・1950＝

73歳：自伝「スライディング・ドア」刊行。恵泉女学園短期大学を開設して、同学長に就任し、

独立回復・・・1951＝

74歳：*米国での短期大学協会総会で日本私立短期大学協会代表として出席したが、

メテ-事件・・・1952＝

75歳：体調不良で、東京大学附属病院に入院、末期の食道癌が見つかって、手術も叶わず、築地のがんセンターに移って、放射線治療。数少ないAB型の教え子から、頻りに輸血を受けるうち、

テレビ放送始・・・1953＝

76歳：危篤状態になり、大勢の教え子が駆けつけるなか、生涯独身のまま、没した。

岡本嗣郎「終戦のエンペラー 陸下をお救いなさいまし」、木村恵子「河井道の生涯」、「目でみる日本人物百科」、「日本の女性」、